

科目名	言語発達障害学Ⅱ					授業の種類	演習	必修・選択	必修
授業回数	15	回	時間数	30	時間	1	単位	配当学年時期	2年 前期
【授業の目的・ねらい】 言語発達をもたらす発達の要因について基礎的知識の理解を深め、各々言語発達障害の特性や検査、評価法を修得する。									
【実務者経験】 加西市総合教育センター等にて、専門的な療育活動及びトレーニングに従事。									
【授業全体の内容の概要】 言語発達障害の特性に応じた評価・指導・訓練のあり方について理解できる。 発達段階に合わせた指導について基本的知識と技術を身につける。									
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 言語発達障害について基本的な知識を得ながら運動、言語、認知面の発達について理解を深めることができる。 各種小児関連の検査方法を実際に扱いながら習得することができる。									
回数	講義内容								準備物(教材)
1	小児の正常発達について基本的な知識を理解できる。								
2	言語発達障害について基礎的な知識を理解できる。								
3	知能検査の概要を理解できる。								
4	ウェクスラー式知能検査を用いて一通りの検査ができる。								
5	ウェクスラー式知能検査を用いて一通りの検査ができる。								
6	ウェクスラー式知能検査を用いて一通りの検査ができる。								
7	K-ABCⅡ発達検査を用いて一通りの検査ができる。								
8	K-ABCⅡ発達検査を用いて一通りの検査ができる。								
9	K-ABCⅡ発達検査を用いて一通りの検査ができる。								
10	LCSA言語発達検査を用いて一通りの検査ができる。								
11	LCSA言語発達検査を用いて一通りの検査ができる。								
12	LCSA言語発達検査を用いて一通りの検査ができる。								
13	その他の心理検査を用いて一通りの検査ができる。								
14	その他の心理検査を用いて一通りの検査ができる。								
15	その他の心理検査を用いて一通りの検査ができる。								
定期筆記試験									
【使用教科書・教材・参考書】 適時検査用具および検査用紙を使用します。									
【準備学習・時間外学習】 臨床実習に向けて普段から検査道具の扱いに慣れ、手順や採点法に習熟しておく必要があります。									
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、 60点以上の場合に科目を認定する。									